資 料

最近の単生類研究

小 川 和 夫*

(昭和 55 年 4 月 25 日受理)

Recent Studies on Monogeneans

Kazuo OGAWA

Faculty of Agriculture, the University of Tokyo, Tokyo 113, Japan

(Received April 25, 1980)

1978 年 8 月、ポーランドのワルシャワにおいて第 4 回国際寄生虫学会議 (Fourth International Congress of Parasitology) が行なわれた。会期中、筆者も含め、11 カ国 19 人の研究者が集まって、単生類研究の円卓会議が開かれ、いくつかの事項が了解された**。単生類研究において、このように各国の専門家が集まって、専門家間の約束事が決められたというのは、おそらく前例のないことである。了解事項は例えば国際動物命名規約のように、成文化されたものではないが、世界の第一線の研究者の間で決められたこと故、大いに実効性があり、内容を紹介する価値があると考えられる。

討論は、フランスの Dr. L. EUZET が議長となって進められた。まず、イギリスの Dr. J. LLEWELLYN が自らの系統分類 (筆者注: 詳細については, LLEWELLYN (1963, 1970) を参照されたい) を解説し、続いて、ソ連の Dr. A. V. GUSSEV が BYCHOWSKY の系統分類を軸とした分類 (筆者注: 詳細については, BYCHOWSKY (1957) および GUSSEV (1977) を参照されたい) を説明した。次に、これらの分類法をたたき台として討議に移り、以下の事項が参加者間で了解された。

1. BYCHOWSKY (1937) の考えの通り、単生類を扁形動物門の中の 1 つの独立した綱とみなす (筆者注: 日本においては、二生目と並んで、吸虫綱単生目に分類されてきた。この了解に従うと、「二生目」および「単生目」

は、各々「吸虫綱」、「単生綱」となる)。この了解に伴い、吸虫綱に対しては、“Trematoda” を用い、“Digenea” という用語を使用しない*。また、単生綱に対し、主としてソ連の研究者の間で用いられてきた “Monogenoidea” という用語は、国際動物命名規約 (筆者注: 規約中、勧告 29A) 上、誤りであり、“Monogenea” に訂正する。

2. 周縁小鉤 (marginal hooks) の順序のつけ方には 5 通りある (GUSSEV, 1979 a)。混乱を避ける意味から、理論的に正しい順序が解明されるまで、暫定的に、LLEWELLYN (1963) の方法に従う。即ち、後固着盤の後方から前方に向かって、第 1 対、第 2 対……と数える。また、中央にも周縁小鉤がある場合には、それを第 1 対とし、以降、後方から前方に向かって、第 2 対、第 3 対……と数えることとする。この方法は全ての単生類に適用される。

3. 単生類のキチン質構造各部の名称に混乱がみられるため、用語を統一するための特別委員会を組織する (筆者注: この委員会は未だ実際的には機能していない)。また、特に、後固着盤の中央の大鉤に対して、英語の “anchor” の代りに、暫定的に、ラテン語の “hamulus” (複数形: “hamuli”) を採用する。しかし、この妥当性については、更に審議を要する**。

* この意味において、“monogenetic trematode”, “digenetic trematode” という用語は不適切である (GUSSEV, 1979 a)。

** 用語の統一という点に関しては、主として、英語に統一すべきとする考え方 (GUSSEV, 1976 等) とラテン語に統一すべきとする考え方 (AKHMEROV, 1976 等) がある。

* 東京大学農学部水産学科

** その模様は GUSSEV (1979 b) によっても既に紹介されている。

以上の事項を決定した後、ソ連科学アカデミーの協力のもとに、近い将来、レニングラードにおいて、単生類に関する国際シンポジウムを執行するという決議を採択して会は終了した。

ここで、特に、第1の了解事項に関して、筆者の意見を述べる。単生類は吸虫類よりむしろ条虫類、特に、単節条虫類の *Gyrocotyle* に近いとされ、吸虫類から独立させて、1つの綱を構成しているとする考え方が既に定説となっており、筆者も妥当なものと考え。従って、英語の場合と同様、日本語に関しても、「単生(目)吸虫」「単世代吸虫」および「二生(目)吸虫」「復世代吸虫」という用語は好ましくない。Monogenea に対しては「単生類」または「単生虫(類)」, Trematoda に対しては「吸虫類」が適切な用語と考える。

文 献

AKHMEROV, A. Kh. (1976): On Latin denominations for chitinoid structures of attachment and copulatory organs of some monogeneans. *Trudy Biologo-Pochvennogo Inst., Novaya seriya*, 34 (137), 17-19. (in Russian)

*BYCHOWSKY, B. E. (1937): Ontogeny and phylogeny of parasitic platyhelminths. *Bull. Acad.*

Sci. U.S.S.R. (Izv. Akad. Nauk SSSR), Classe des sciences mathematiques et naturelles, 1353-1383. (in Russian)

BYCHOWSKY, B. E. (1957): Monogenetic trematodes, their systematics and phylogeny. English transl. (edited by W. I. HARGIS, Jr.), American Institute of Biological Sciences, Washington (1961), 627 pp.

GUSSEV, A. V. (1976): Freshwater Indian Monogeneoidea. Principles of systematics, analysis of the world faunas and their evolution. *Ind. J. Helminth.*, 25 & 26 (Year 1973 & 1974), 1-241.

GUSSEV, A. V. (1977): The principles of B. E. Bykhovskii's construction of the Monogeneoidea system. *Paraz. Sb.*, 27, 18-26. (in Russian)

GUSSEV, A. V. (1979 a): Methods and terminology in the study of monogeneans. *Folia Parasit.*, 26, 103-109.

GUSSEV, A. V. (1979 b): Problems of monogenean studies at IV International Congress of Parasitology (Warsaw, 19-26 August, 1978). *Parazit.*, 13, 457-459. (in Russian)

LLEWELLYN, J. (1963): Larvae and larval development of monogeneans. *Adv. Parasit.*, 1, 287-326.

LLEWELLYN, J. (1970): Monogenea. p. 493-504 in "Taxonomy, genetics and evolution of parasites." *J. Parasit.*, 56, Sect. II.

* 間接引用